

緑陰

「緑陰」題字
本庄第一高等学校 木元彰乃

第22号
令和4年11月16日発行

一般社団法人
埼玉県私立中学高等学校協会
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区
高砂4丁目13番20
電話 048-863-2110
HP
www.saitamashigaku.com

あいさつ

一般社団法人 埼玉県私立中学高等学校協会会長 青木 徹

埼玉県の私立中高は、全国に先がけ
いろいろな教育的な試みを行ってきた。
例えば、全国的に多くの私学が行
っているコース制や特色あるクラス
の設定です。全国に先駆けて行った
コース制は、埼玉の私立中学・高校は
他県に比べ規模が大きいこと、多様な
生徒が入学して来ることから、その必
然制があったからです。

また、私立学校の補助金を私立学校
への直接補助だけでなく、平成15年の
県議会決議をもとに保護者への授業補
助を行うなど、今ではあたり前になっ
た画期的な保護者負担軽減が埼玉から
始まったといっても過言ではありません。

このような歴史ある埼玉県私立中学
高等学校協会の会長を今年度拝命し、
身が引き締まる思いです。

さて、いま日本の学校教育は大きく
変わろうとしています。文部科学省は
「令和の日本型教育」の構築を目指し
て、と銘打った中央教育審議会の答申
を昨年発表しました。その中で、社会
の在り方が劇的に変わりAI技術が高
度に発達する「Society 5.0時代」の到
来により一人ひとりの生徒に対応した
「学びの最適化」と探究的な学習や体
験活動等を通じ、生徒同士あるいは多
様な他の人と共同（協働）して学び活
動し、21世紀で必要な資質や能力を育
成する「協働的」な学びの充実が重要
だとしています。

埼玉県の私立中学・高等学校すべて
がこれらの課題に取り組み、生徒一人
一人の将来の夢の実現のための学びが
行えるような環境を作って行きたいと
考えています。

令和4年度 埼玉私学教育研究大会 開催

一般社団法人 埼玉県私立中学高等学校協会
副会長 小林 弘 彦

令和四年八月二十二日(月)に埼玉私学
教育研究大会がさいたま新都心のホテル
を会場に多くのご来賓をお招きし、埼玉
私学教員が出席し盛大に行われました。
今回で二五回目になるこの大会は埼玉
県私立中高協会が主催し、埼玉私学教員
の資質・向上のため時代に即した研究
テーマを決め、長きにわたり埼玉私学の
発展に寄与してきました。

今回のテーマは「時代が必要とする新
しい資質・能力の育成を目指す埼玉私学
教育」として、午前の全大会は東京大学
高大接続研究開発センター教育学研究科
兼担の植阪友里先生に「確かな学力と
学習力を育む指導とは」という題目で
ZOOMを使い講演をしていただきました。
心理学の観点から学校の授業や生徒の間
題点をわかりやすく事例や解決手立ての
一案など提案があり、聞いていた先生方
からは質問が多く出て、時間が足らず質
問を途中で打ち切るほど好評でした。

午後は場所を移し分科会が行われ「学
校経営」「理科教育」「英語教育」「進学
指導(コロナのため急遽中止)」「生徒指
導」「学校保健カウンセリング」「数学
教育」「中高一貫」「募集対策」の九つ
にわかれ、より専門的な教育研究をお
こないました。
参加した先生方は研究テーマに沿っ
て他校の先生方と教育における意見や
考え方を確認し合い、校内研修では得
られない大きな収穫を得て、研究大会
は終了しました。
埼玉私学は今回の大会をはじめこれ
まで多くの教育研修を行ってきたお
り、各学校の枠を超えて教員同士が研
究協力をし合い、学校の建学の精神に
基づき、各学校の特色ある新しい学び
を創り出してきました。これからも埼玉
私学は様々な教育研究を
追求し続け、
生徒たちのた
めに時代の求
める教育改革
や授業改善に
邁進していき
ます。



『躍動の青い力 四国総体2022』 県代表となった私学各校が躍動

7月23日から8月23日の1カ月間、全国高等学校総合体育大会が開催された。今年は『躍動の青い力 四国総体2022』というスローガンで四国4

県が主な会場となった。埼玉県からは厳しい県予選や関東予選などを勝ち抜いた831人の高校生アスリートが全国の舞台で全国から集まった強豪選手とその力を競い合った。



〈総合開会式〉(7月28日)で埼玉県選手団を代表として入場行進する「細田学園 女子バレー部」開会式もコロナ対策が徹底された中で行われた。

写真提供：埼玉高体連

県内私学関係からは県選手団の7割を超える610人が代表選手登録。私学に通う選手が埼玉県選手団を牽引し、躍動した大会であった。

◆【個人種目】県代表8種目優勝 うち私学は7種目

個人種目の県内高校関係では8種目で優勝、そのうち7種目が私学であった。入賞者数でみると県内高校関係で73種目が入賞、そのうち私学関係が60種目であった。

以下私学関係第3位以内(私学協会加盟校)。



〈相撲〉高校横綱に輝いた埼玉栄の高山瞬佑、右は山田道紀監督。埼玉栄は相撲、柔道、ウエイトリフティングの計5種目で優勝、存在感を全国に示した。

写真提供：埼玉栄高相撲部



〈水泳〉男子200m個人メドレーで優勝した春日部共栄の入江秀行。200m背泳でも第3位と躍動。春日部共栄からは関根侔彩も女子200mバタフライを制した。

写真提供：春日部共栄高水泳部

【個人優勝】7種目

・相撲 個人 高山 瞬佑(埼玉栄)

・相撲 個人 80kg級 清宮 健史(埼玉栄)

・柔道 男100kg級 新井 道大(埼玉栄)

・柔道 女57kg級 新井 心彩(埼玉栄)

・水泳 男200m個人メドレー 入江 秀行(春日部共栄)

・水泳 女200mバタフライ 関根 侔彩(春日部共栄)

・ウエイトリフティング 男+102kg級C&J 鈴木 夏空(埼玉栄)

・陸上競技(男円盤投げ) 益井 晴輝(西武台)

・ウエイトリフティング 男102kg級スナッチ 鈴木 夏空(埼玉栄)

・ウエイトリフティング 男102kg級スナッチ 鈴木 夏空(埼玉栄)

・ウエイトリフティング 男102kg級スナッチ 鈴木 夏空(埼玉栄)

・ウエイトリフティング 男+102kg級スナッチ 鈴木 夏空(埼玉栄)

・ウエイトリフティング 男+102kg級スナッチ 鈴木 夏空(埼玉栄)

・ウエイトリフティング 男+102kg級スナッチ 鈴木 夏空(埼玉栄)

・水泳 女200mバタフライ 会沢 心唯(春日部共栄)

・柔道 男100kg超級 坂口 稜(埼玉栄)

・柔道 女78kg級 三浦 心暖(埼玉栄)

・水泳 男200m背泳ぎ 入江 秀行(春日部共栄)

・水泳 女800m自由形 古江 花帆(本庄東)

・水泳 女200m背泳ぎ 山田 菜月(埼玉栄)

・バドミントン 男シングルス 藤原 睦月(埼玉栄)

・バドミントン 男シングルス 藤原 睦月(埼玉栄)

・テニス 女シングルス

大脇 結衣(浦和麗明)

・レスリング 男65kg級

内田 怜児(埼玉栄)

・レスリング 男71kg級

菊田 創(埼玉栄)

・レスリング 男80kg級

増田 大将(埼玉栄)

・レスリング 女57kg級

太田 早也香(埼玉栄)

・レスリング 女62kg級

元木 日陽里(埼玉栄)

◆(団体競技)

県代表15競技で入賞

うち私学が13競技

団体競技においての埼玉県の優勝は残念ながら今大会ではなかったが、入賞(ベスト8以内)は県内校で15競技あり、そのうち13競技が私学であった。以下私学入賞校。

【団体準優勝】2競技

・相撲(団体) 埼玉栄

・レスリング(男 学対) 埼玉栄

【団体第3位】2競技

・バドミントン(男 学対) 埼玉栄

・サッカー(男) 昌平

【団体第5位】6競技

・柔道(男団体) 埼玉栄

・ハンドボール(男) 浦和学院

・フェンシング(男 学対) 立教新座

・空手道(男 団体組手) 埼玉栄

・空手道(女 団体組手) 花咲徳栄

・アーチェリー(男 団体) 栄東

【団体第6位】2競技

・水泳(男 競泳学対) 埼玉栄

・空手道(男 学対) 埼玉栄

【団体第8位】1競技

・水泳(女 競泳学対) 春日部共栄

今大会はコロナ禍の影響を受け、入場制限など特別な緊張感の中での大会となった。来年こそ、選手たちが気兼ねなく競技できる状況になっていることを期待したい。



〈サッカー〉第3位の昌平、篠田翼①は4得点の活躍で大会得点王に輝く。昌平からは大会優秀選手に篠田、津久井、荒井、土屋の4名が選出された。

写真提供：埼玉サッカー通信

四国総体2022 埼玉県代表校 ※私学協会加盟校のみ抜粋

陸上競技	《男》埼玉栄、花咲徳栄、早大本庄、武南、昌平、西武台、西武文理、東農大三 《女》埼玉栄、本庄東、花咲徳栄、昌平、国際学院、春日部共栄、西武台、早大本庄	弓道	《男》東京農大三 《女》東京成徳深谷
バスケットボール	《男》正智深谷 《女》埼玉栄	テニス	《男》浦和学院、浦和麗明、立教新座 《女》浦和麗明、山村学園
サッカー	《男》昌平	登山	正智深谷
ソフトテニス	《男》昌平、川越東、武蔵越生、埼玉平成、立教新座 《女》埼玉平成、昌平、星野	レスリング	《男》埼玉栄、花咲徳栄 《女》埼玉栄
卓球	《男》埼玉栄、川越東 《女》正智深谷、埼玉栄	ボクシング	花咲徳栄、秀明英光
ボート	《男》慶應志木	フェンシング	《男》立教新座、埼玉栄 《女》埼玉栄
柔道	《男》埼玉栄 《女》埼玉栄	ウエイトリフティング	《男》埼玉栄 《女》埼玉栄
剣道	《男》本庄第一 《女》星野、淑徳与野	空手道	《男》埼玉栄、栄北 《女》花咲徳栄、埼玉栄
体操	《男》埼玉栄 《女》西武台、武南	アーチェリー	《男》栄東 《女》大宮開成
相撲	埼玉栄	なぎなた	埼玉栄
バレーボール	《男》正智深谷 《女》細田学園	少林寺拳法	《男》川越東
ソフトボール	《女》花咲徳栄	ダンス	秋草学園
バドミントン	《男》埼玉栄 《女》埼玉栄	ライフル射撃	《男》国際学院、栄北、西武文理 《女》栄北、国際学院、自由の森学園、西武文理
自転車	《男》栄北、立教新座	水泳	《男》春日部共栄、埼玉栄、慶應志木、武南、立教新座、栄東 《女》春日部共栄、埼玉栄、武南、星野、花咲徳栄、栄東、本庄東、秀明栄光
ハンドボール	《男》浦和学院 《女》埼玉栄		

私立の躍進

一般社団法人

埼玉県私立中学高等学校協会

副会長 近藤 文彦

「埼玉でイモは育つが、私学は育たない」。以前に私の父が、埼玉の著名な私学人の発言として教えてくれたものです。同時にその方が発言された時の状況も聞いた記憶はありますが、もう思い出すことが出来ません。父もその方も既に鬼籍に入られているので、尋ねる事も出来ません。

私事で大変恐縮ですが、私は大学を卒業後に会社勤めを経て都内の私立校に物理の教員として奉職しました。その後現在の学校に移り、平成5年に学園の理事に就任しました。それ以降は、広報・入試業務に取り組むようになり、自然に理事長である父と話す機会が増えました。それまでは校内での私の居場所が物理準備室でしたし、住まいも別なので、父と話す機会はそう多くはありませんでした。私が父と学校について、あるいは他の私学を話題にするようになったのは平成5年以降のことなのです。父は平成11年に他界しましたから、父から前述の私学人の話を聞いたのはその間のこと、おそらく平成

5年から7年頃と推測出来ます。

中高協会から配布された資料によると、平成5年頃の埼玉の私立は44校の高校、その高校に併設された7校の中学校と1校の小学校が活動していました。高校の中には有名大学の付属校もあり、ミッション系や音楽学校もあります。また、部活動も充実していたようです。野球だけが部活動ではありませんが、調べ易いので「夏の甲子園」の出場校を調べてみました。平成元年以降、私立以外で甲子園に出場した学校は片手で余ります。平成11年以降は私立しか出場していません。同じ理由でサッカーも調べてみました。全国高校サッカー選手権における歴代の埼玉県代表、平成元年以降はほぼ私立と言っても過言ではありません。では進学実績はどうでしょう。私は東京大学の合格者数のみで学校を評価する事は異常と考えています。しかし、調べ易いので「東京大学」で比較してみます。結果は下の表の通りです。(人数は正確なものではなく、某HPの折れ線

	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
私立	16名	20名	14名	12名
公立	87名	48名	58名	53名

グラフを私なりに解釈したものです。参考程度にとどめて下さい。東京大学合格者数は公立高校の実績が圧倒的にあるかのように見えます。しかし、埼玉県内における公立高校と私立高校の在籍比率は、おおざっぱに言って7・3ほどになりますので、私立高校は健闘していると言えるでしょう。前述の著名な私学人が何故「私学は育たない」と発言されたのか、真意は分かりかねますが何かご自身の考えを比喩的な言い回しでおっしゃったのでしょうか。

そして平成6年以降、埼玉の私立高校は3校創立、中学校は24校併設され31校を数えるまでになりました。ネットに都道府県別の学校数ランキングがありますが、埼玉県の私立中学は5位にランキングされています。当然1位は東京で182校と圧倒的ですが、埼玉県は全国で5番目に私立中学の選択肢が多い県という事です。選択肢が多いという事は、素晴らしい事です。生徒本人に適した中学が選択できるからです。そして、以前にも増して個人的な私立が増えてきました。例えば、昌平中学・高等学校です。平成29年に埼玉では初めての、国際バカロレア認定

校になりました。では進学実績はどうでしょう。同じように「東京大学」で比較してみます。令和3年5月判明分の既卒者を含めた合格者数は、私立は33名、公立は82名でした。前述の折れ線グラフからえた数値も、既卒者を含んでいると思われます。つまり、単純に比較しても私立の躍進を遂げた事は間違いありません。どうやら、イモと同じくらい、私学も育っていたようです。

先般、「埼玉県内中学校卒業者の全日制高等学校進学比率の推移」という埼玉県から配布された資料を見ると、私立を選択する入学者が増えている事が分かります。私立の躍進は保護者の皆様、生徒諸君からも評価されているからでしょう。しかし、残念ながら私立のこのような躍進も、埼玉県庁の皆様には評価されていないようです。埼玉県から交付される私立高等学校の「運営費補助額」は全国最下位だからです。このような悪条件の下で、躍進を遂げられたのは各私立の努力の賜です。しかし近年、学校は大きな変化を迎えています。これからの教育はICT(情報通信技術)を活用する事を求められているのです。この変化に対応するために中高協会としては、まずは「運営費補助額」の全国最下位脱出を目指す所存なので、保護者の皆様にも応援して頂ければ幸いです。